Funasho Case Study2

“互いを裏切らない”真摯な対応が信頼を生み
ハウスミカンを中心に取引が拡大

唐津農業協同組合（JAからつ）

JAからつは、2006年に佐賀県内の4つのJAが合併して誕生した、九州の中でも規模の大きいJAだ。佐賀県はハウスミカンの生産量が日本一で、JAからつでもハウスミカンをメインとした柑橘類が出荷量の約40%を占めている。

船昌との取引は、ミカンからスタートして約50年にもわたるが、小ネギ、ミディトマトなど品目や出荷量が増えて取引が本格的になったのは2019年から。通常、果物と野菜は営業が異なるが、JAからつに関しては船昌の担当者は一人。「果物でも野菜でも、一回に輸送する手間は同じですから。むしろ、担当商品が増えると産地とのつながりも強くなり、年間の生産スケジュールや休耕地の活用など様々なご提案もしやすくなります」と、石田は語る。

この頃に完成した選果場は、温州ミカンであれば1日に約100トンの処理能力があり、年間約1万トンの柑橘類を扱う。「他の地域と同様、JAからつ管内でも生産者の高齢化、人手不足は深刻な問題です。生産者にとって手間が大きい選果の部分を軽減することで収穫後の効率を高め、質の良いものをスピーディーに出荷できるようになっています」と、JAからつ営農経済部の佐々木義幸氏は語る。

幸い、全国的に見ると同管内には若手の生産者や後継者も多い。今後は、10年後20年後の農業を考えた施策を、船昌と取り組んでいきたいという。